

# 自己点検・自己評価報告書(平成 25 年度)

## 学校法人瓶井学園 日本理工情報専門学校

平成 26 年 4 月 1 日作成

### 1. 学校の教育目標

実践的専門技術教育とともに、人間形成の一部を担いアイデンティティの確立に寄与するという理念のもと、実践力に富み、広い視野を持った、真に良識ある技術者を育成する。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 企業・業界団体と連携し、校内外における実践的実習・演習を行う。
- (2) 卒業生・保護者との懇談し、それぞれの立場から本校の教育に対する意見を求める。
- (3) 教員の資質・指導力を向上させるため積極的に研修に参加させる。
- (4) 学生にエネルギー管理に対する理解を求め、省エネルギーを実践する。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の理念・目的・育人人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は明確か	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

#### 【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、学生は概ね理解している。対外的には、ホームページ、学校案内などに記載しており、周知されている。
- ・保護者に入学式の案内状を送付し式への列席を促し、入学式後に保護者懇談会開催し保護者との話し合いの場を設けたが出席者が少なく、次年度はより多くの方に出席頂けるよう周知を行いたい。
- ・保護者に卒業式の案内状を送付し式への列席を促し、卒業式後のパーティーにおいて懇談の機会を得、本校教育への貴重なご意見を頂くことができた。
- ・教育課程編成委員会において基本技術をしっかり習得してこそ実務実習が活きるのではとの意見があり、カリキュラムの内容・講義法を詳細に検討し内容をより一層充実させる。

## (2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・平成 25 年度は、文部科学省「職業実践専門課程」認定に向けて、企業との連携の強化、外部意見を取り入れた教育内容の改善、教職員の質の向上、情報公開に取り組んだ。
- ・定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- ・学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、教育課程編成委員会を開催し企業・業界団体より広く意見を求めている。
- ・教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、適宜見直している。
- ・平成 25 年度においては、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内」、「募集要項」についてはホームページでも閲覧できるようにした。学校関係者評価委員会においては公開項目の検討を重ねている。
- ・証明書発行、卒業台帳の作成、卒業証書の発行等の業務のデータ化が整備され効率化が図られているが、入学から卒業までの一元管理にまだ改善の余地がありデータの共有化をさらに進めていく。

### (3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

#### 【総括・特記事項】

- ・関連分野における実践的な職業教育として、企業等による実習・演習を取り入れ、教科内容や教育方法の工夫はできている。カリキュラム変更については、関係省庁の指定カリキュラムが大半を占めるため難しい面があるが、可能な範囲内で取り組みを進めていく。
- ・関係省庁により教員資格要件が設定されているため、十分なレベルの教職員を確保できているが、より一層のスキルアップを目指し教職員の外部研修の受講や国家資格取得を奨励している。
- ・平成 25 年度は低圧電気取扱業務特別教育を実施し自動車整備科・電気デジタル情報科の全て教員が修了した。
- ・教育課程編成委員会において基本技術をしっかり習得してこそ実務実習が活きるのではとの意見があり、今後とも 全カリキュラムの内容・講義法を詳細に検討していくこととなった
- ・教育課程編成委員会において電子・情報工学科の「演習」を「ワークショップ」、自動車整備科の「ビジネスリテラシー」を「職業実践演習」、「情報リテラシー」を平成 27 年度に「職業実践実習」に変更することについて同意を得た。
- ・教育課程編成委員会において学校によるコンペ等を開催し、電気・建築の学生と企業との協力により 1 つの作品を作り上げるような夢のある実習ができないのかとの意見があり今後検討することとなった

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

【総括・特記事項】

- ・就職試験、面接指導等、就職に向けての指導を十分に行っている。
- ・資格取得率の向上には、重点的に取り組んでいる。第一種・第二種電気工事士国家資格については、土曜日に国家資格受験対策を集中的に実施することにより試験合格の成果を得ている。特に夜間部の合格率が高かった。しかし第三種電気主任技術者試験においては、合格率5%という難関であり成果は全国平均の2倍に留まった。  
建築士のように卒業後に受験の資格は、卒業生への指導も考えなければならない。
- ・一部の卒業生については、学校との密接な関係を持ち、卒業生の就業先企業等との産学連携の理解・協力を得ており、在校生の就職にもつながっている。クラス単位や同期単位の同窓会には教員が参加し卒業生との懇談の機会を得ているが、学校全体の同窓会を開催しより多くの情報を得たいと考えている。
- ・工事担任者 DD 第一種の養成課程を電気デジタル情報科・電子・情報工学科に対し開講し100%の取得となった。

## (5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生への生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④	3	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任が対応し、学科責任者が企業との窓口となっており、有効に機能している。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学校と相談の上で進路を決定する仕組みになっており、進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、懇談を行うなど適切に対応している。  
優秀な学生の保護者に対しては対応できていない面があるので成績優秀者の保護者を卒業式後のパーティーに招待し懇談する機会を得た。
- ・夜間部を設置しており、社会人でも働きながら資格取得、スキルアップを目指すことができる体制となっている。

## (6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- ・海外研修等についてはアメリカ・ヨーロッパで行っていたが、学生の減少や経済状況の影響から定員に達しないことが続き現在は募集していない。
- ・非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとり、適時訓練の実施をおこなっている。

## (7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- ・学校案内、ホームページ等において、授業内容、取得できる資格の内容等を示しており、適宜見直し・改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある。
- ・平成25年度はホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- ・入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- ・入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- ・学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。

## (8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

## (9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	③	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い、より深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいるが、点検項目については今後も検討を重ねていく。
- ・平成25年度は、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行った。

## (10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れや無料公開講座等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・ボランティア活動を奨励しているが、参加者が少なく、普及活動の強化が必要である。
- ・公共職業訓練を受託している。

## (11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

### 【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。
- ・ベトナムのドンズー日本語学校において、日本の技術教育体験のため教員を派遣し、現地にてロボット技術の短期講座を実施した。
- ・ベトナム人の技術教員養成を目的とした特待生留学の受け入れを提案している。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学生・保護者に対しても、本校の教育理念・目標を明確に示し、理解を得る必要がある。そのために保護者と教職員との懇談できる機会を増やしていかなければならないと考え、平成 25 年度は様々な取り組みを行った。平成 26 年度はさらに機会を設けるよう、平成 25 年度より計画を進めている。

平成 25 年度は、電子・情報工学科、電気デジタル情報科、建築デザイン科、自動車整備科、ロボットシステム科の 5 学科について、文部科学省「職業実践専門課程」認定に向け、企業との連携の強化、外部意見を取り入れた教育内容の改善、教職員の質の向上、情報公開に取り組んだ。特に企業との連携においては、学生の実践的な学びの機会を多く得ることができただけでなく、教員の知識や技術の向上、また本校教育を企業の方に知っていただく良い機会となり、大きな成果があった。

本年度は、例年同様企業による実践的教育を実施し、株式会社ミライトテクノロジーズ、日立コンシューママーケティング株式会社等の企業への就職につなげる成果を得られたが、今後もまたより一層企業・業界団体等との連携を強化し、学生の実践的な技術・技能の習得に取り組む。

教職員・学生は、学校としての社会的役割を認識し、省エネルギーに対する理解を深め、空調設備・電灯設備の使用時のエネルギー消費抑制に協力的であった。